

2024年度

元気ひろば保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025年1月15日（水）～2月14日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月28日（金）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	0～2歳児の異年齢保育を行っていく上で、それぞれの年齢・月齢の違いを受け止め、合わせた子どもの遊び、学びを保証できるように全職員で話し合いを重ねた。それによって子どもたちの好奇心を広げることができた。
子どもの発達援助	子ども一人ひとりの言動、表情、仕草などを見つめ、子どもの気持ちを理解することで、何をしたいかを汲み取るよう心掛けた。また子どもの“今”の姿を受け止めることで、心の成長にも繋げることができた。
保護者に対する支援	日々の連絡帳だけではなく、送迎時には会話をし保護者のお子様に対する気持ちを大切にしながら、ご要望や園からの問いかけをさせていただいた。そのことによって信頼関係の構築に努めた。
保育を支える組織的基盤	毎週のMTGや、気が付いたことをその都度、職員間で共有することが子どもの育ちを支える基盤となった。 今後も職員間のコミュニケーションを密に、園内外の研修を受けることで更なる質の向上を目指していきたい。

総評
今年度も職員が一丸となって、子どもの思いに寄り添った保育を実践することができた。異年齢保育を行う上で子どもたちに合った保育計画を立てることが困難と覚えることもあったが、その都度職員間で話し合いを重ねることで、益々職員間の連携を充実させることに繋がった。また環境に合わせた工夫を引き出せたことも、今後の保育の厚みにも繋げて行けると確信した。 来年度も引き続き、全職員で子どもたちの思いを大切に保育していきたい。

--